

第28回 総会・懇親会が開催されます。

同窓生の皆さま、同期生をお誘いのうえ、
親睦を深める、楽しい集いに参加して下さい。



静中・静高関東同窓会
会報 第53号
平成14年5月31日発行
編集人 山梨由記

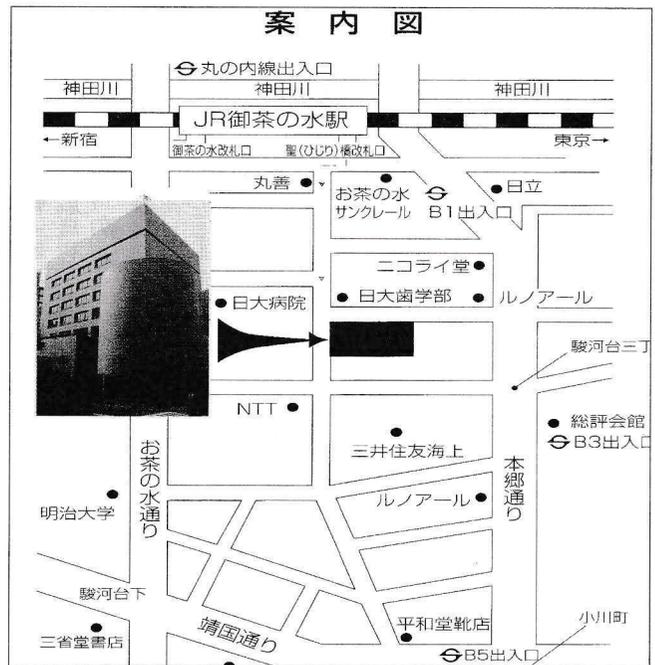
平成十四年度
関東同窓会総会・懇親会を開催します。

日時 七月五日(金) 午後六時より
場所 中央大学 駿河台記念館 二階 大ホール
東京都千代田区神田駿河台三十一-五

会費 三、〇〇〇円(但し、学生は一、〇〇〇円)
(年会費の三、〇〇〇円は当日、受付も
致しますが、この会報に同封の
振込用紙によりご納入をお願いします)

議題 平成十三年度事業報告、会計報告
平成十四年度事業計画、予算承認
役員数増員の承認
講演 齋藤 孝氏(九五期 明治大学文学部助教授)
百万部突破となったベストセラ―

★ 齋藤孝さんのプロフィールは、
次のページにて、ご案内しております。



懇親会は 講演者の齋藤孝さんを交えて和気あいの楽しい
会になること請け合いです。
又、静岡から恒例の、美味しい黒はんぺん、わさび漬けも届き
ます。今年の会場は、「JRお茶の水駅」から二、三分の近くで
解りやすい場所ですので、大勢の同窓生をお誘いの上、お気軽
に御出かけ下さい。
新刊書の即売を会場にて行いますのでご利用下さい。
同封のがきに、恐れ入りますが、五〇円切手を貼付して、出
席・欠席とご近況を記入し、同期生の消息をご存じの方は裏表
の欄に記入して六月十八日までにご投函して下さい。
ファクシミリでの送信の場合は、
03・3257・0820までお願いします。

新刊書の案内

● 会費を三千円に。毎年五千円

● 会費を三千円に。毎年五千円で料理・飲み物などを提供して来ましたが、今回は第一ホテル直営のレストランから同様の料理を提供致します。大勢の皆様のご参加を期待して会費を安くしたものです。その差額の損失を会の資金から補助すると役員会で決定しました。お待ちしています。

● 名刺交換会を。先輩、同級生、後輩が多数集まる会ですから異業種の交流会と致しましょう。各自名刺を三十枚以上お持ち下さい。名刺を持たない先輩からは貴重な体験、豊かな知識を頂戴しましょう。

★ 齋藤 孝さんが一躍注目されたのは、昨年出した著書「声に出して読みたい日本語」これは古典から夏目漱石、歌舞伎、落語、浪曲から大道芸まで76編の日本語を収録した暗誦朗誦テキストである。高年齢者に受けていると共に、学校教育で軽視されている暗誦朗誦こそが重要と考えたからである。

- ・ 春は あけぼの
- ・ はっけよい
- ・ 智に働けば、角が立つ
- ・ 知らざあ言つて

聞かせやしよう

★ 新本陣殺人事件

81期 若桜木 虔

(本名 稲村 直彦)

(矢島誠氏との共書)

由比と東京の久我山で同日同時刻に起きた、雪密室殺人事件。いづれも被害者は旧本陣の当主で、金庫からは三十億円の有価証券類が消えていた、というストーリー。横溝 正史の名書「本陣殺人事件」に挑戦した、昨年度の「週間文春」が選ぶ、傑作ミステリー・ベストテン」の第五位に選ばれた、傑作と自負する本格ミステリー作品です。

● 発行元 河出書房新社

● 定 価 千六百円

★ 「作家デビュー」

完全必勝講座

雑誌「公募ガイド」にプロ作家を目指す人のための指南講座作家養成塾を連載しており、また、町田市でプロ作家を目指す人のための小説作法講座を主宰しています。その講座内容のノウハウを集約したのが、この作品です。日本図書館協会の選定図書に入っており、作家を目指す人には必携の書と自負しております。

● 発行元 文芸社

● 定 価 千三百円

★ 各期幹事一覧表 ★

幹事が変更の場合は事務局までお知らせ下さい。特に幹事未定期は至急選出してご連絡下さい。

71	海野幸雄・後藤弘枝	浦田 彰
72	桜井亮介・深田 均	山中博司・山梨由記
73	後藤孝子	
74	佐藤鐘司・藤原經史	
75	酒井孝太郎・鈴木 浩	
76	清水雅尚・野方重人	
77	三浦位通	
78	鈴木藤男・垣生尚敬	
79	上田尚亮	
80	吉野卓史・上出和子	
81	鈴木素明・萩原英昭	
82	仲谷博明・岡部政之	堀内淳司 83 山本雅敏
83	池田幸司・深津俊郎	
84	成岡和美・井出慎吾	
85	葺科名雄・石川嘉和	
86	高橋 宏 89 鳥巢 修	
87	荒井千明・米澤宣行	
88	山野直文	
89	岡村幸彦・大羽章弘	
90	松野敦子	
91	奥田規之・細沢 優	
92	清水智人	
93	小泉輝武・開発啓之	
94	宮崎吉英・山本龍男	
95	大高原之丞・大長 智	
96	荒谷じつ子・吉崎英輔	
97	鈴木敏行	
98	朝比奈正三・小杉 弘	
99	田中俊男	
100	野沢正憲・佐野 旭	
101	木下景一	
102	大石次男	
103	堤 崇・山本雅之助	
104	青木静男・原 淳	
105	岩井平一郎・影島利邦	
106	清水逸郎・萩原達雄	
107	相川富士雄・法月重雄	
108	柴崎芳三	
109	安東哲夫・居初良雄	
110	服部雅雄・廣川 聡	
111	丸尾文治 51 原崎郁平	
112	菅沼 栄・杉本久敬	
113	原崎進一	
114	鈴木弥門 46 丸杉孝之助	
115	西沢純三	
116	お知らせ下さい。特に幹事未定期は至急選出してご連絡下さい。	

★ 関東は広くて友人と会う事が出来ない。
★ 同期会のチャンスも作って、楽しい集いを作ってください。
★ 幹事未定期は……至急選出してご連絡下さい。

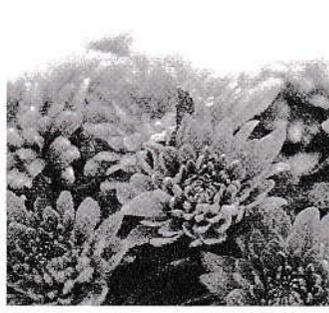
大石 巖元会長を悼む

60期 上杉重吉

三月三日、大石さんが亡くなられた。

六本木のお宅に何って久しぶりに歓談したのは昨年十一月二十九日。「花見の頃、またやって来いよ」と言われて辞去してから、僅か三カ月余のことだったので信じ難かった。

大石さんが宮澤次郎初代会



長(42期)を継いで第二代会長になられたのは平成元年六月、故奥野孝副会長(同じ53期)とおふたりが車の両輪となって関東同窓会のため大いに尽力してくださったことは衆知のことである。

奥沢徹三代会長にバトンタ

ッチされるまでの九年間、役員会・幹事会・総会とその打合せ会などで、お茶の水の会社に何十回集まり協議させていただいたことだろう。また、

印高会ゴルフ会では箱根カントリイ倶楽部でのプレーも、仙石荘での前夜祭もいつも一緒に楽しませていただいた。

大石さんの高校生活は毎日野球漬けだったという。そして大毎オリオンズの代表もつとめられたのである。平成十一年母校野球部が甲子園に春と夏連続出場して活躍した時、同じ53期で静岡在住の芹澤五郎さんの作詩「甲子園四題」を訳され解説し、墨痕あざやかに揮毫された。会報48号の見開き2ページは、心の通ったおふたりの合作である。

また、来し方の思い出などを後輩に、とお願いしたところ、こころよく寄稿してくださいましたのが平成十二年十二月の会報50号所載の「自らを叱る」である。素晴らしい内容を四千字にまとめられた自分史は、皆にたいへん感銘を与え、喜ばれたものである。

この写真は、大石さんの生地、天龍産の杉材に筆をふるわれたものを、訪問の記念に頂戴したものだ。たまたまその日、読売新聞夕刊の文化欄に俳人森澄雄さんの句集「天日」の紹介記事があり、その大見出しが「私を捨てて虚空をうたう」、そして解説に虚空とはいのちを包む大きな自然のこととあり、これは同じ日の縁と、大石さんに感謝の念をこめて早速手紙をしたためたことを思い出す。

心からご冥福をお祈り申し上げます。

大石巖さん

逝去を悼んで

難の日にもののふ

逝きて残る夢

想いは駆ける

駿遠の里

— 一後輩 —

大石巖さんを偲ぶ

佐治俊彦

大石巖先輩が急逝されたとの知らせを受けたのは、三月三日の朝でした。あまりに急で信じられぬ思いのまま夕刻、東京、六本木のお宅に伺うと、大石さんはいつもと変わらぬ端正な顔で静かに眠っておられました。

明子夫人の話では入院されたのは一日、死去まで僅か二日間のことでした。病名は間質性肺炎とのことで、高齢者の肺炎というのは恐ろしいものです。大石さん特有のあの大きな元気な声がもう聞けないのかと思うと、心に空洞が広がったような気がします。

大石さんとの出会いは忘れもしません一九五六年(昭和三十一年)四月のことでした。

当時。大石さんは毎日新聞の日銀記者クラブのキャップで、駆け出し記者の私は、その下に配属されました。大石さんは人脈の豊富な方で、新木栄吉・日銀総裁、中山素平・日興銀副頭取、小山五郎・三井銀行取締役などに次々と紹介されましたが、特に小山さん、大石さんと私は、旧制静岡高校、東大の同窓で、この時以来五十年近く交誼が続きました。中山さんと大石さんはゴルフ会も作っておられ、年二回の箱根のカントリーでの一泊ゴルフは三十年余りも続き、私もその中に加えていただきましたが、賑やかな大石さんは常に会の主役でした。

大石さんは旧制静岡野球部OB会の有力メンバーでした。OB会はその経歴を買われて五九年には毎日新聞から大毎オリオンズの営業部長に出世されました。ファウル・ボールを観客にプレゼントするなどの新機軸を打ち出し、大いに張り切っておられたのを覚えています。

然しその二年後、同じ静岡野球部の先輩である北岡文一



さんの懇請によって大商証券に移られ、毎日新聞を離籍された時はがっかりしました。

大石さんはいずれ毎日新聞に復帰されるものと思い、その下で働き続けたいと考えていたからです。大商証券は合併によって新日本証券となり、大石さんはその社長となりましたが、私と同じように大石さんを慕う人々は多いと思います。大石さんは明朗な反面、心配りの細やかな人でした。将の器というのを感じました。

七七年、毎日新聞社が苦境に陥った時、大石さんは既に財界重鎮であった中山素平さん、小山五郎さんと連繋して平岡敏雄社長を助け、毎日新聞を破綻から救うのに貢献されました。当時、経営企画室長を勤めていた私には忘れられぬことです。毎日新聞社はこれを多として、大石さんを異例の社友として遇しています。

大石さんを知って五十年弱、いまその死に会って、思うこと余りに多く、つくづくと無常を感じます。合掌。
(毎日新聞社元常務取締役)

月見里得知郎 (53期) さん
を偲んで

68期 荒谷じつ子

関東同窓会発足時より、会の発展に御力添え頂いた方々が、次々に亡くなられ淋しが入っていたころ、今年になって先会長の大石殿(53期)さんに続いて月見里さんが亡くなってしまった。二十数年前静岡本部の同窓会長鈴木与平(44期)さんに頼まれ、宮澤次郎(42期)さんを会長に関東支部が作られ、論客ぞろいの先輩達の下で、奥野孝(53期)さんが事務局、月見里さんが会報の編集人になって会をいかに発展させようかと心を尽くされ、花見の会、釣りの会、ハイキングの会など、皆が楽しく集まれるように御尽力下さった。ハイキングの時、皆が歩けるか必ず、下見をして御自分で歩かれて決められたそうです。後に会報を上杉(60期)現会長に任せられいつもニコニコと後輩達のやる事を温かく見守っていらつしやいました。最近は、

病気で会にも御出席になれず、新しい人達とはなじみも少なかったと思いますが、陸軍経理学校(静中優等生でもなかなか入れなかったそうです)

す)一軍隊一連抑留一キヤノンとお過ごしになりました。弟さんの礼次郎さん(57期)が四月九日大丸ビルホールでお別れの会をやつて下さり、なつかしい顔写真の前で、大勢の人々が集まり、楽しかった昔を思い出しながら御馳走になりました。御香料、御花代は一切受取らず皆の楽しむ姿を写真に撮つて喜んでいた兄への冥土へのお土産にしてあげたいとの御意志でした。

すばらしい御兄弟、さすが静中の先輩、いつも人を喜ばそう、役に立ってあげようの温かさのあふれる生き方を学ばせて頂きました。静岡の卒業生であることを何よりの宝と思ひ、良き先輩に感謝しながら御冥福をお祈り申しあげます。長い間有り難うございました。

「親睦委員会」から

委員長 荒谷じつ子

昨年の組織改定で誕生した委員会の一つが「親睦委員会」です。でも、同窓会の活動って全部が親睦活動じゃないんですか。会の規約の第二条に「当会は会員の親睦をはかることを目的とする」とありま

す。たしかに、期毎に世話役をお願いしている毎年の総会では議事や講演会の後には必ず親睦会があり、黒ハンペンを着に和気霽々のひとときを過ごすのが常です。また、毎年九月の第一日曜日と決めて催される「江ノ島会」は黒田秀幸さん(67期)や雨宮明生さん(68期)などがお世話役になって何十年と続く文字通りの親睦会です。そして、これもゴルフ好きの同窓生には先刻ご存知の、毎年箱根で開催される「印高会ゴルフコンペ」は仁科光司さん(77期)や清水雅尚さん(77期)たちが裏方さんになって同窓同好の士たちの親睦を図ってくれています。まだまだ三千人の会員の中では、ほかにもいろいろ会員同士の親睦活動があるのではないのでしょうか。

で、今更何で「親睦委員会」?というわけですが、そういう皆さんの親睦活動の情報センターみたいな役目とか、同期会・同好会などの新しい親睦活動の相談とかお手伝いとか、そんなことでこの「親睦委員会」がお役に立てるかも知れません。それにしても、関東同窓会としての新しい親睦活動のアイデアがな

いでしようか。会の活性化のためにお知恵を貸してください。

「江ノ島会」のご案内

毎年九月の第一日曜日、そうです今年は九月一日。ご存知「江ノ島会」の日です。

毎年毎年、静中・静岡のOBたちが湘南の江ノ島に集って五十余年、今年の「江ノ島会」は第五十五回になります。江ノ島への長い参道橋を渡ってすぐ左手、先年亡くなった大先輩の永野清さん(35期)が経営する「恵比寿屋」が変わらぬ会場です。

会のスタートは正午。毎年、静岡からも校長先生をはじめ同窓会の幹部も参加されて談論風発、日の暮れるまで楽しい語らいが続きます。会費は一万円(通信費などを含む)。

岳南健児健女の皆さん! 残暑の中にも秋が忍び寄る一日、湘南の潮風に吹かれながら、久闊を叙し、旧交を暖めませんか。甲子園への夢なんかも語り合いながら……。

江ノ島会 世話役

黒田秀幸 (67期)
雨宮明生 (68期)

問合わせ先 黒田宅
0445 (261) 5156

同期会など

クラス会近況報告

51期 原崎郁平

関東地区に在住の同期生が平成十四年四月九日に銀座六丁目の和食レストラン富貴洞に集まった。今年の出席者は9名で、そのうち一名は静岡から狩野安彦君が出席した。広瀬毅君の名司会のお陰で楽しいクラス会であった。初めに本日の会合を楽しくするために、①病気の話はしない②孫の自慢話はしないようにとの提案があった。このような話は自分勝手なことなので聞いている方は何の興味も示さないからである。別に反対もないし終始この話題は出なかった。狩野君の面白い話で、クラスメイトで清水在住の滝戸直正君のアドバイスに「健康維持のために義理を欠いても構わない」ということがあった。お互いに身につまされることで皆頷いていた。狩野君の話の中心は何と言っても静岡情報である。①静岡市と清水市との合併問題②静岡空港問題③静岡祭とお浅間さん



のお祭りのこと④静中静高創立125周年が来年11月に予定されていることなどである。玉越君の話、「毎日家族以外の3人と話をしていけばボケない」とのことこれは参考になる。渡辺功君がドイツ人のハイゼさんのことを紹介した。この人は明治、大正、昭和を日本で生きた人であるが日本の武士道に心酔し赤穂浪士、白虎隊などを挙げている。死んでから飯盛山に葬れとの遺言でそこに墓があるとのこと。それについても最近の傾向で国民意識の欠如は嘆かわしいとの話があった。田中賢一君は旧陸軍に10年いたが最

初は騎兵部隊に入り途中から落下傘部隊にいた。席上では軍馬慰霊の資料から馬に関するユーモアあふれる小話が紹介され、また田中君持参の馬の交わりの貴重なスライドが上映された。初めて見る光景に興味深く見入った。林盛次君が諫山廉君から貰った自分史から感銘を受けたとのこととご先祖さまのことをもつと知り家系を大事にしたいとの話があった。高橋達郎君は囲碁に励んでいる。原崎郁平は出版社依頼の専門図書執筆に追われている。諫山廉君はゴルフ、パソコンをやっているが、戦後復員してから父親の亡くなったことを知ったのを契機に自分史の必要を感じ三年前に自費出版したという話があった。最後に広瀬毅君はゴルフ写真、バードカービングをやっているが、四月中旬に写真展で入選作を発表するとう嬉しい知らせがあった。食事終了後、校歌を四番まで斉唱し再会を約して解散した。写真は前列左から林盛次、広瀬毅、狩野安彦、高橋達郎、後列左から玉越俊一、渡辺功、田中賢一、諫山廉、

原崎郁平の九名である。

六〇期同期会

60期 笠間達男

一九四〇年(皇紀二六〇〇年)入学の六〇期同窓会は、毎年、四月第二週の金曜日に開かれる。今年は四月十二日だった。会場も駅前のブケ東



海静岡と決まっている。

今年には近年になく少ない三十三名が集まった。仕事で来られない人は減ってきて、反対に病氣療養者が多くなったのは否めない。開会前に同級生で皮膚科の名医、八戸の薄場真のNHK放映(昨年九月)の診療ビデオを見た。鳥取からきた外科医の岡本正信の乾杯の挨拶で会は始まった。岡本は剣道部員は誰もいないと嘆いたが、われわれ柔道部員は五名も参加して気を吐いた。

関東同窓会からは上杉重吉・荻原莊太郎・原善三郎・原田龍二と笠間の五名が参加した。

長田南小出身今村逸雄が静岡市小学校の綴方文集「草の実」から同級生の作文をコピーして配った。私は小二の時の作文を貰って、帰宅して孫にみせることができた。静中に入学し「草の実」の常連だった人々とは小学校時代からの友だちだと感じたものだった。

同期会の日が決まっているので、私は年頭にカレンダーに書き込んでいる。

三人だけの同窓会

61期 相馬 孝

同期の加藤光成君が亡くなってもう半年がたつ。あまりにも突然だった。昔流の古希は過ぎたが、今風の平均寿命は越えられなかった。やはり早いと言えるのではないか。彼にはまだやってほしい事が一杯あった。だが、今振り返ってみると、彼は実に多くの人の心に熱い思い出やメッセージを残していった。

彼と僕、それに同期の稲森君の三人は、ほぼ毎月、それも夜たった十五分きまつて顔を合わせていた。僕はこれを、三人だけの同窓会と呼んでいた。

三人は以前からN響コンサートに定期的に出席したが、日が違っていたので会うことはなかった。それが四年前会場が変わり、偶然同じ日を選んだことから、お互いを発見した。

彼は毎回のコンサートのため、ご夫妻で静岡から出てきた。そして九時過ぎ終わればすぐ車で東京駅に急ぎ、最終一本前の新幹線で日付の変わらないうちに自宅にたどりつ

いていた。たまにならともかく、ほぼ毎月のこととなると大変だ。なまはんかの音楽ファンではとても続かないことだ。

だから僕達の同窓会は休憩時間の十五分、それも一階ロビーでの立ち話に限られていた。だが中身は濃かった。友人、知人の消息、お互いの近況、今日の演奏の厳しい評価などが話題になった。話の展開は目まぐるしく、きまつて時間切れで、話半分で終わりになった。だが三人はこの同窓会がとても気に入っていた。音楽を聴く楽しみと相俟って、その日が待ち遠しかった。

加藤君の音楽歴は終戦直後に遡る。浜松のポロポロの兵舎で聴いた近衛秀磨の未完成と運命が、彼の瑞々しい心をゆさぶり、扉を激しく叩いた。以来彼はクラシックの熱心な信徒で在り続け、晩年はブルックナーやマーラーの大曲を好んでいた。

家には奥様のピアノ、長男のヴィオラ、次男のフルートがあつて、いつも音楽が溢れていた。或る時彼は、奥様の家計簿が悲鳴を上げるような

大枚をはたき、チェロを調達してきた。そして遅蒔きながらの勉強を始めた。恐らくこの時彼の胸中には一家全員によるカトウ・ファミリア・アンサンブル誕生の夢があつたに違いない。そしてそのアンサンブルが創るサウンドオブミュージックを家族を結ぶ絆にしようと考えていたと思ふ。

彼は歌うことも好きだった。シューベルトの冬の旅が大好きで、十八番は、辻音楽師、奥様のピアノでよく歌っていたという。

だが現実には彼の音楽の夢に悉くNOを出した。職務の責任が大きくなり、面倒見のよさも手伝って、毎日が東奔西走となった。人の危機にはアレグロで駆けつけ、悲しみにはアダージョで接し、教室ではダ・カーポを心掛け、時に頭上でシンバルを響かせた。折角のチェロは廊下の片隅で埃をかぶつたままとなった。

彼が再び音楽を取り戻したのは六十に近い頃だった。待ちかねたように地元の合唱団に加わり、サードテナーを受け持った。団員の信頼を集め、世話役に徹した彼は、歌う時

もお酒を飲む時も皆の中にあつて、さながらヴァイオリンの魂柱の役割を果たしていた。

突然の死で、三人の同窓会は終わった。告別式では紺のブレザーの合唱団員四十人がシューベルトのミサ曲から、「聖なるかな」を合唱した。花に囲まれ美しい音楽に送られて逝きたいと彼の願い通りだった。フォーレのレクイエムが流れる中、お悔やみを述べた時、奥様は「三人だけの同窓会、決して忘れません。有難うございました」と述べられた。

昨年暮れ、N響定期はデュトアによるベルリオーズの「キリストの幼時」だった。オケもよかったが、スエーデン放送合唱団が素晴らしかった。最後のア・カペラのアーメンコーラスは、全員の声が一人の声に、それも神々しい天使の声になって、たゆたい、輝きを残して天に上がっていくようだった。外に出て黙々と歩いていた稲森君がふとつぶやいた。「加藤君に聴かせたかったな」。

六十四期 同期会

64期 野澤 正憲

新年の初会合は、一月十九日(土曜日)いつもの店、道

灌かがりで開催、出席者二十一名、司会の佐野旭君の挨拶久方ぶりの出席、望月坦君の乾杯の音頭で幕が上がった。毎回出席の鈴木明郎、神谷武男、松下一男、竹内豊、杉本哲君等が欠席したのは少し淋しいがその代わり何年振り顔を見せられる友が増えることは、世話人として大変うれしいことである。盃を二杯、三杯と重ね、静岡の石原良昭君の差し入れて、黒はんべんと玉葱のフライが膳に並べば、「アツ」という間に昔に戻って御国訛りで話はずむ。いつもの様に近況報告。殆どの者が定年退職し、子育ても、そして子供の巣立ちも終わり話題は病氣とゴルフ、と夫婦二人の静かな生活、旅行に行く話が多い。遠藤栄君の大雪山縦走の話。永田進一君の「フィジー」でのゴルフ疲れから膝に水がたまって歩行不能、途端に人生の半分が失われた気分。長島健君、細君の不出精で一人旅が多い。海外旅行の話は益頭尚文を抜

きに語れない、今回はレオナルド・ダビンチの「モナリザ」の絵の話、あれは実母を描いた。その故事米歴を開陳したが、一同感嘆することしきり。女性の権力向上か男性の力が減退したのか、いや夫婦協力の美談、家事の分担で妻が食事を作れば、後片付けの皿洗いは私の仕事、皿の良し悪しは手にもつと良く判る様になった、と桜井富士男君。一番「シヨック」だったのは望月坦君の金融封鎖の話、二月八日金曜日の夕方、小泉総理が経済破綻を防ぐために二月十二日より当分の間、預金の引き出しを中止するという。嘘の様な本当に起こるかも知れない話。皆戦後の超インフレの中で新円切換に出会い苦しかった事を思い出した。幸い三月危機も起こらず今日を迎えられたことは同慶の至りである。八木綱三君の髪の手入れの話、あご髭、ほほ髭、本人は乃木大将の様にはやしいとの事。柳田堯君、鎌倉に又新居を建築中。お目出度う。村上喜代二君、会社をご子息に譲って静岡の実家を改築し余生を故郷で過ごす予定。七十才をすぎたらゴルフを始めると宣言した中野実君、練習



春のゴルフ会

六四期 佐野 旭

トキ、H14・4・18 (木)
トコロ、小田急西富士GC
ヒト、東京・静岡から22名
テンキ、晴(前日は大雨強風)

このところ「前日雨、当日晴」のコンディション続きで、幹事の挨拶も「昨日の雨で地面が湿っているから、キャリーでしっかりと稼ぐ様に…力一杯打って下さい。」と、前回に続く無責任な発言。

優賞は、小沢義郎君、「医者から、少レノンピリしろ…」と言われ「ユツタリした気持でラウンド出来た」喜びと、「新ハンデに恵まれ」て、ネット71、加えてニアピン賞2ヶ獲得は見事。(このコース二度目の優賞)

神谷武男君「シマッタ!!」と思った第一打が立木に当たってフェアウェイへ…、これに気を良くして前半は久々の49。後半「バンカーで大タタキ」もあったが、ネット74で準優賞のうえ、ニアピン賞も獲得。

その他のニアピン賞は、山本和彦君、小川哲司君、村上

喜代二君、稲森照男君、と常に安定したゴルフの面々が獲得。

ベスグロ賞は、手堅いゴルフで定評の伊藤剛君が90で廻り久々の受賞。

「今回はハンデを利し、いつもより上位を！」と、中盤まで好調の塩津博義君、途中でクリーク、バンカーに捕まり、1ホールで15も叩いてから「ガククリ…」、いつものゴルフに戻って、二回連続のブリー賞。「狙って獲れる賞ではないから…」と、奥様孝行賞に今回もニッコリ。

ブリー賞獲得者から、いつも感謝の弁を受ける村松敏雄君には「今回はアタルンダ」賞が贈られた。中野君との決戦が待ち遠しい様です。

石原良昭君、「先般静岡在住の同期生数名で行った、ハワイでのゴルフは絶好調、今回こそは…」と密かに上位を狙っていたが、力が入り過ぎたか、いつもを下廻るスコアに残念、20位に留まる。

今回は「誰にも優賞のチャンスを！」と、幹事の独断と偏見でハンデを改正(改悪

との声もある)したところ、上位常連組の、渡辺進式君、風間政彦君、稲森照男君たちが下位に沈み、代って上位を占めたのが、何れも過去四年間の平均スコアを2桁も縮めた、精進の跡著しい小沢義郎君、神谷武男君、山本和彦君、岩本吉雄君の四名でした。

70才を過ぎてから、実力の上があった?人、下がった?人、好調?不調?何れにしろ、ブリーの都度、スコアが変動するのは当り前、せめて、花を愛で、小鳥のさえずりに心を癒し、清風の中で楽しいプレーを続けたいと思います。参加者は前出の13名の他、井上公司、漆畑茂、鈴木高保、時田勝博、永田進一、野沢正憲、渡辺宏一、大石次男(兄)、佐野旭。

ここ数年の記録と、小生の記憶をもとに、会員を勝手に色分けすると……。

◎実力派(トシを感じさせず、相不変ウマイ)

伊藤剛、風間政彦、蛭川博之、渡辺進式

◎上位安定派(若干スコアは落ちて来たが、やっぱりウマ

イ) 稲森照男、村上喜代二、渡
迎宏一、清水照彦(兄)

◎懐旧派(故障、病後のせい
もあって、昔のゴルフに戻ら
ないのがクヤシイ)

石原良昭、井上公司、漆畑
茂、塩津博義、永田進一、野
沢正憲、山本和彦、大石次男
(兄)

◎爆発派(時折トンデモナイ
爆発をするが、フリーガンで
はない、(一)内はベスト、
ワースト差)

時田勝博(27)、小沢義郎
(21)、神谷武男(17)

◎淡淡派(良くてもわるくて
も：一生懸命やっています)。
岩本吉雄、小川哲司、鈴木
高保、村松敏雄

◎飲んで、食べて、楽しけり
や満々歳派
漆畑輝夫

◎トシをとってスコアが縮ん
だ変則派
佐野旭(この4年間の平均
98、それ以前の9年間106)

何人かは複数の派に跨がっ
ていますが、やはり、懐旧、
淡淡が主流と言えましょう。
(無理に色分けしましたが、
責任はもてません、秘書がや

テニス部関東OB会

67期 児島英男

テニス部関東OB有志の集い
が、平成十三年十二月八日
(土) 好天に恵まれた、テ
ニス日和の中、明治神宮外苑
テニスクラブで開催された。

いつもお元気で若々しい、
プレーをされる清水 汪氏
(59期) 巧みな、ロビングで
プレーされる諸田 実氏(61
期) 静岡より、永い間テニス
部の部長として、ご活躍、ご
指導いただいた、鈴木 敏朗
先生(生物) 及び大石 久氏
(72期) ご夫妻も参加された。

鈴木先生はお元気で、若々
しいプレーをされていた。又、
計良知子さん(82期) 大石徳
子さん(大石夫人)の女子プ
レーヤーも、参加され、プレ
ーに花を咲かせ、楽しい、一
日を過ごした。

夜は、神宮外苑前のメトロ
会館で、懇親会を開催、清水
汪氏の乾杯の音頭で宴会に入
った。

戦後、物質不足の時代、住

友校舎で、テニス部を立ち上
げた、功労者、柴田克朗氏
(63期)の学生時代の苦勞話
等、夜の更けるのも忘れ楽し
い、一夕を過ごし、又の再会
を誓って散会した。この会の
開催に当り、毎回、毎回、お
話いた、いて居ります、山中
博司氏(73期)に心より、感
謝して居ります。

(当日の参加者)

鈴木敏朗(先生)
清水 汪(59期)
諸田 実(61期)
柴田克朗(63期)
児島英男(67期)
岡村英二郎(67期)

立花雍一(68期)
増井良敏(68期)
川端正良(70期)
大石 久(72期)
清水雅彦(72期)
山中博司(73期)
大河内 久(73期)
計良知子(82期)
成岡和美(86期)
大石徳子

回想・随感など

「ふるさとつれづれ」

74期 藤原經史

今年も又桜の季節がおと
ずれる。私の父の命日が三月
三十一日。ふるさと金谷の地
を訪ねる。当日朝自宅を出て、
用賀から東名高速に乗る。吉
田インターから一般道に出
て、湯日から金谷に至る。東
海道線金谷駅の近くに菩提寺



の長光寺がある。そこに私の
父母が眠る。年二回、父と母
の命日に訪れる。

私の誕生日にも訪れたいと
数年前から思っているが、な
かなか出来ない。

暮まいるの帰りは、いつも
安倍川の上流、梅ヶ島温泉の
数キロ手前にあるコンヤ温泉
を訪ねることにしている。

民宿であるが、そこのおやじ
さん、奥様達が素朴で、いつ
も明るく出迎え接待してくれ
る。ゆつたりと気持ちの落ち
着く宿である。特に露天風呂
がごんまりとしているが非
常に気持ちがいい。肌非常に
に良いということである。た
しか大野木荘という民宿であ
る。

安倍川沿いに車を走らせる。
その日の前に展開される風景
はいっつても誠に心地が良
い。山並が次から次へと変化
しその姿を変えてくれる。特
に春先は山桜があちこち咲
き、目を楽しませてくれる。

又宿の近くの安倍川沿いの公
園は、桜の花が満開に近く、
すでに東京は散ってしまった
いたので、楽しく花見する事
が出来た。

丁度十日ほど前に富士郡の芝川町の窪A遺跡から約一万一千年前の縄文草創期の集落跡が見つかったと新聞発表があり訪ねる事を楽しみにしていた。東京への帰り、浅間大社経由で、芝川町に入る。現地までの道筋が分らなかつたので、芝川町役場に立寄って教育委員会で場所を細かにお聞きして現地に行く。

遺跡は福石神社の真横であった。数台の車が駐車していた。地元の人と調査されている人が数名作業していた。興味深く遺跡を目のあたりにすることが出来た。「一万年も前に、ここに人間が住んでいたとは、…」又調査発表によると、五千年近く人が生活していた痕跡があるとのことである。現地をあとにして又車を走らせる。先ほどの道を戻る。めずらしい黒色の山門が目に入る。そのそばに一本の桜、満開で風にふかれて、花びらがちらちらと舞い落ちていた。黒の山門とピンクの花びらと、明暗をはっきりと浮かびあがらせる。車からおりて、山門に立つ。信長の首塚があると説明されている。「へえ、

こんな所に信長の首塚とは……」興味が益々に沸いて来る。数十段の階段が目に入る。「なんだ、すぐそこか……」と思い階段を登る。とんでもない、階段を登り切った所は平地で、又次の階段そして又次の階段となんと数百メートルも登る。後で聞いた話では、昔は奥の院まで山門から二キロメートルもあつたとか。ようやく信長の首塚に到着する。又その説明書を読んでびっくり。一五八二年六月一日夜、すなわち六月二日未明、本能寺の変。

寂光寺の日海僧侶が、原志摩守宗安に命じて、本能寺から、信長の首と、宗安の父胤重と、兄孫八郎清安の首を持ち帰り、この西山本妙寺(本門寺か?)に埋葬し、その日印に「柩」の木を植えたと言明してある。又柩の年輪が五百年としてある。大変大きな木で幹も太く年輪五百年、さもありなんと思うほどである。その柩の木の相を見て、なんとも言えない霊を感じ、信長の首塚も真実味を感じさせられる。

物の本によると六月一日の

夜、寂光寺の本因坊日海と本能寺の僧、利玄坊と囲碁の対局があり、信長の上覧を得た。その囲碁の対局がめずらしい「三却」となり勝負つかずで、打ちどめ子の刻に解散した。そんな縁で本因坊日海僧侶が指示を出したということである。ふるさとを訪ねる楽しみが、又一つ増えたことになった。

七四期会のメモリアルの日が近づく。毎年七月四日は、東京と地元の七四期生が一同に会し、昼はゴルフ、夜は夫婦参加の懇親会を開くことにしている。その日が今年も一日ごとに近づく。田舎を離れ、東京に住んで四十数年、同期生と会うことも又人生の一つの楽しみである。

手遅れ?

76期 鈴木 浩

今更、遅いとは思いますが、私は、今少し努力をしています。

やさしい国語体ばかりの国語教育は、日本を滅ぼす、そんな話がありますが、私の場合、恥ずかしながら、かつて

なかった位の時間を文章を読むことに費やしたところ、読み書きがずいぶんとお粗末であつたことに改めて気付きました。

若い時代より、会社勤めを経てずっといいかげんに過ごしてきた答でしょうか、肝腎の母国語さえ寂しい状態です。昔から目で読み慣れていた言葉、思いこんでいただけに、半世紀もたつて誤りに気付くこともある。偏執狂のようには辞書をひき、電子辞書(これは当初感激した程の勝利物)を開き、カタカナ等の外来語も含めて確認するようにしています。一度だけでは固くなった頭にはとても無理なので、メモをとりますが、それがみるみる一杯になってしまふ。多少不安なものも確認しないと気分が悪い、今更ながら自分の不勉強を寂しく思う日々です。

同期の異業種交流会を

97期 清水 智人

静岡関東同窓会97期の幹事をお引き受けして、今年でおよそ三年経ちますが未だに幹

事らしきことができずに心苦しい限りです。今回折角、原稿の執筆をさせていただく機会をいただきましたので、関東地区の同級生への呼びかけを兼ねて近況を報告させていただきます。

早いもので、静岡を卒業して20年以上が経過してしまいました。今年2月に勤続十五年の特別休暇(ファミリーボーナスと呼びます)を利用して七十歳を過ぎた両親を連れてハワイ・ Maui島に四泊六日の親孝行旅行をしました。私の仕事の都合でなかなかに日程が決まらないうちに、9・11テロが起きてしまい、一度は、海外旅行を見合わせて、沖縄辺りの国内旅行も検討しました。父は、はじめの海外旅行に先立ち、早々にバスポートを取得して私の決断を今や遅し、と待っていたので、海外旅行を決断しました。

候補は日本が冬でしたので、気候が温暖なところから、香港、台湾、スペイン、グアム、アメリカ西海岸、ハワイの中から選びました。ハワイのその時期は雨期でしたが、

ザトウクジラが繁殖の為に南極から訪れることが決め手となりました。

マウイ島ではホエールウォッチングツアー、潜水艦ツアー、サンセットディナークルーズなど海を満喫する事ができました。両親も日本では味わえない、優雅で落ち着いた雰囲気です。次回のファミリーボートは五年後に二週間の休みをもらえます。それまで、両親にはまだ元気でいて欲しいと願っています。

さて、97期の皆さん、たまには異業種の同級生との語らいの場を設けませんか？

私の知っている同級生の近況は以下の通りです。四月から丹羽孝文君が住友生命浜松支社に転勤になりました。

山本浩義君は日産自動車厚木テクニカルセンター勤務藤田貴史君は私と同じリコーで部品の開発をしています。私はリコーで新製品開発のプロダクトマネージャーをしています。皆さんお忙しいとは思いますが、まずはこちらまでメールを下さい。

tomos@jhb.att.ne.jp

静岡の万葉を歩く(二十四)

51期 原崎郁平

磐田市今之浦 磐田市立今之浦公園に万葉歌碑が立っている。

○九月(ながつき)の

その初雁の便りにも
念う(おもう)心は
聞え来ぬかも

遠江守桜井王

(巻八・二六一四)

○大之浦の

その長浜に寄する浪
寛(ゆた)けく君を
念うこの頃

聖武天皇

(巻八・二六一五)

昭和五十八年六月一日 磐田市教育委員会建立 揮毫者 風祭山主亮三(副王寺住職)

寸法は高さ二百二十三センチ、幅二百五十センチ、厚さ百十センチの自然石に、縦七十五センチ、横百センチの黒御影石がはめ込まれている。

歌の大意は、

○「九月になると飛んでくる雁よ、どうか私の気持ちを宮廷にいる聖武天皇さまに伝えてください。」(遠州桜井王)

○「大の浦の長い浜を見てい



ると、寄せては引いていく波のように今か今かと王(桜井王)の帰りを待つこの頃ですよ」(聖武天皇)

歌碑が立っているところは、JR東海道線磐田駅から北東へ約2 km強。加茂川と中川が囲むようにして流れている今之浦公園の北端に位置している。

磐田市は奈良時代に遠江国分寺と遠江国府がおかれ、政治や文化の中心として栄えた。磐田市は中泉地区と見付地区とに別れており、お互い

にその勢力を二分していた。中泉地区には府八幡宮、見付地区には見付天神があり、祭礼も中泉は十月、見付は九月に行われていた。明治の頃、この付近に東海道の鉄道が敷

かれる時に、見付の住民は蒸気機関車の公害を恐れて反対したので、やむを得ず中泉の南側に敷設された。このことが2つの地域の発展の差を生じることとなった。鉄道沿線の方が町の発展にとっては遙かに有利であった。市内中央町の磐田教育会館裏に同文の歌碑があるが今之裏の歌碑より小さく文字も鮮明で読みにくい。

磐田市には遠江国分寺跡がある。JR磐田駅から北へ真っ直ぐに約15分歩くと国分寺跡に行くことができる。約180m四方の敷地内に七重塔、金堂の礎石と土塁がある。南大門、中門、金堂、講堂、回廊跡などが発掘調査で確認されている。遠江国分寺は、全国的にも最もよく遺構の整ったものである。国分寺と道路を隔てたところに府八幡宮がある。

私事であるが、磐田の土地には悲しい思い出がある。兄弟姉妹の中で最も年齢が近く、かつ親身になって世話をしてくれた姉がこの土地に嫁ぎ40才の若さで病死した。悲しい野辺送りをしたことが何十年経っても忘れられない。

新市名は「静岡市」

静岡市と清水市合併

来年の四月から

静岡、清水両市の合併協議会は三月二十日、両市は投票の結果、合併すべきだとの結論を出した。合併はこれで事実上決まり、両市の議会の議決を受け、二〇〇三年四月一日に新市が誕生する。新しい市名は静岡市。投票では両市から十八人づつ、県職員二人を含む三十八人が 静岡、駿河、日本平の候補から一つを無記名で投票。静岡20、駿河18、日本平0だった。両市の人口は計七十一万人。政府は両市の合併を念頭に、政令指定都市の要件を「七十七万人程度」に緩和しており、「初の七十万政令市」の誕生にも道筋がついた形となる。来年四月に政令市になる予定のさいたま市に続き、全国十四番目となる見込み。又、合併で生まれる新静岡市の土地面積は福島県いわき市を抜いて、日本一広い市となります。

清水港の今は

清水駅の近くで育った小生には、清水港も思い出深い所である。大きな船が出入りし、行き交う車や、そこに集まる人々、岸壁で魚釣りをした日々。清水港越しに見える快晴の日の壮大な富士山。今はどうなっているだろうか。清水港のすぐ近くに清水港湾博物館がある。今は、フェルケール博物館の愛称で呼ばれている。ここの豊田館長さんからお話を聞きました。まずは、名前の意味から。

フェルケールはドイツ語で「交通」「交際」を意味する言葉で、人と海の交流のステージともいえる港にスポットを当て、清水港を中心に、港の生い立ちから現在までを展望出来る、総合的な港の博物館です。清水港の貴重な歴史資料や海事資料を保存・展示し、広く親しまれてきた「清水港湾資料館」を母体に、91年5月にオープンした。



フェルケール博物館

財団法人・清水港湾博物館

その港湾資料館は、1978年7月20日の海の記念日に鈴与が設立し、日の出埠頭の再開発計画に従って、規模内容を充実させ、現在の博物館に継承されたものです。

港は人と海が出会い、漁業などさまざまな活動が展開された場所であると同時に異国に開かれた窓であり、経済と文化の交差点でありました。この博物館では、主に清水に関連した船の精巧な模型や船舶関連品、港湾作業道具などが収集・展示され、歴史の証人とも言える資料を間近に見ながら、清水港の生い立ちから現在までの変遷、さらに人と海の関わり合いの歴史を学ぶ事が出来ます。館長の案内で見て廻る。舟積みに使われる当時の道具類、和船の模型、作業員の着ていた法被、漁具、漁船の修理に使う道具類。さらに輸出品の静岡茶やミカンなどのラベル。当時、実際には、見たか、見ていないかは不明だが、古めかしい品々が展示されていて、懐かしいものである。今は港湾の役目を知らない世代が多く、小・中学生の課外授業に県外からも多数来るとの事。この、日の出埠頭が今、様変わりしている。昔は、輸出・輸入品の保税倉庫の通り、街であつたものが、なんと賑やかな、エスパルスドリームプラザの建物がある。1階には物販ショップ、飲食ショップがあり、先程の館長が昼食に“寿司食いに行こう”と案内され連れていかれた所が 寿司ミュージアムと言う、すし屋横丁である。それは良いや、取材に行こう。日本各地にはラーメン横丁と言って、ラーメン屋だけの通りがあるが、此処は日本初の寿司屋横丁なのである。清水すしミュージアムである。すしのテーマパークは明治時代の清水を舞台に、すしの「歴史」「文化」「国際性」をテーマに展示しており、寿司店10店が営業している。食いねえ、食いねえと清水の寿司を右手でつまんで、と。土曜日の昼時に行ったものだから、もう超満員であと一時間も掛かるのかァと絶句。2階にも寿司店があり、3階には、エスパルス、そうです、清水のサッカーチームです。これに因んだ展示・物販ショップとがある。又清水が生んだ作家、あの、ちびまるこちゃんランドと、北原コレクションと言って解る人は解る、ブリキ製の金属のおもちゃの博物館、そして4階には、多数の映画館が入っている、「MOVIX清水」がある。と説明されたが、土曜日、日曜日は人が溢れる盛況ぶりである。生つば飲んで諦めて、フェルケール博物館横の高級レストラン 駿河亭でナイフとフォークで昼食をする。此処の向い側には清水港でただ一つ大きな倉庫を改造して、これも時代の流れかなと思い、今は港に面した静かな高級レストラン「ベルジュ」がある。

このウォーターフロントのムードが若者や家族づれに人気がある。

やはり清水港といえば、忘れてはなるまい。 祝 創業200年の鈴与グループだ。

清水湊において享和元年（1801年）、回漕問屋「播磨屋」として創業し、200年を経た現在も港湾物流業を営んでいる鈴与株式会社の本社が、エスパルスドリームプラザの前にある。

鈴与グループは港湾物流業の他に、倉庫業、リース業、情報処理業、生命保険業、航空代理業、食品製造業、医薬品製造業、エネルギー業、建築資材・住宅関連機器業、不動産業、観光レジャー業と数え切れ無いものがある。土曜日の午後、観光バスが着き、乗用車が並び、人、人、人が、この港・清水に溢れる、心弾む光景がある。

(記 港っ子)



PC**PC**PC* パソコン 奮戦記 その2 *PC**PC**PC

★夕時に、娘達がテレビの料理番組を見ていて、その料理のレシピを最初はメモしていたが、ビデオを取って置けばよかったねと言いながら、そうだ、この番組なら先週見た時、パソコンの“お気に入り”に入れて置いたから、後で見れば良いと言った。うん、成る程。もうパソコンなんだ。娘達がパソコンを作動させて、“お気に入り”に収められたテレビ局のホームページ・アドレスを指定すると、ウン、なるほど、そのテレビ局の料理番組の最初の看板が映し出された。ネエ、今放送されたのだから、もう、インターネットで流しているよねと言った。そうね。アレ、でも、これ先週の料理しか乗っていないよ。まだ、インターネットに乗っていないね。そこで、親父様の登場だ。それは、先週の時のパソコン上の録画だから、上の段にある“更新ボタン”を押すと、現在のページが出てくると指導する。アラ、出てきたわ。ヨシ、ヨシ、もう親父様の方がウワテだわい。★インターネットを利用して、商品売りたい、そこでショッピング・モールと言う電子上の市場・商店街に参加せねばならない。弱電機メーカーの専門だから、ドンドン、このモールが出現する。法人経営から個人運営まで2000とか6000とか言われている。一番に急成長した“R市場”は、毎月の出店料が5万円。今一番有名な市場なんだ。2000社が出店していた。俗に言うショバ代だけで一億円の収入。ここに加入して“R市場”の白いページに自分のPCから、宣伝文章を書き、販売商品の画像を送って貼り付け、所定の手続きをして置くと、お客様から注文がE-mailで届く。実際の店舗を持たなくても、電子上の架空店舗で営業出来る。大成功した“R市場”の後に続けとばかりに出店社を呼び込もうとして勧誘が来る。有料で当たり前。自社の電子市場を賑わせたいから（いわばサクラ）無料でもいいから、“お試し”でいいから出店してとせがまれて、有料・無料合わせて20モールに参加する。大手のM電機のモールに出店したいと説明会に参加し、現状を話すと参加業者もM社の担当者も驚嘆する。これにも参加して1年後には50のモールに出店。そう、1個5000円の商品が毎日売れば、25万円で1ヶ月で750万円の売り上げで、1年で9000万円だとの、取らぬタヌキの計算で、（今は不況のせいにして）終わりつつあります。

山梨由記（73期）

★★★★★ 静中・静高関東同窓会 HP 便り ★★★★★

2000年10月よりスタートした静中・静高関東同窓会のホームページですが、最近では、HPを見て“会員に登録して欲しい”と言うメールも来るようになりました。

この会報をご覧の会員で、関東在住の同窓生を知っていると言う方がおられましたら、関東同窓会会員として推薦して下さい。会員の皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。

★ HPアドレスは <http://club.pep.ne.jp/~stnfre/kanto/kanto-top.htm>

★ メールアドレスは stnfre@pep.ne.jp

なおアドレスは、すべて英文モードで、- はShiftを押しながらへを

- はテンキー（数字を打つところ）にあるキーです。 石川 嘉和（87期）

★★★インターネット・検索クイズの答え 黒はんぺんのHPは★★★

会報52号で出題しました、検索サイト ヤフージャパンで、2002年1月1日～7日までの間の検索で A はんぺん 更に絞り込んでB 黒はんぺんの言葉が掲載されているホームページは幾つあるかの答えは、驚きましたね。A はんぺんは、14000、B 黒はんぺんは、1370ホームページでした。

呼べば答える ヤッホー ヤフージャパン<http://www.yahoo.co.jp>

An E-mail from Seattle

北緯47度

73期 岩崎秀隆 Washington U.S.A 98008

かれこれ半世紀も前の記憶を思い起こすなんて、アルツハイマーの気が、気に為るこの頃、酷な事よと思いながら、草臥れた木造兵舎の城内中学校を後にして、犯罪者だと思った事は少しも無いけれど、毎日、三保から巡航船に揺られて清水に渡り、新清水から新静岡へと通学の行き帰り、県庁のお役人に君は越境入学よと追いかけられ、柱の陰に逃げ隠れの通学は、思い返すと三文オペラじみていたが、ピンク色のコンクリートの校舎、整備された運動場、グリーンの石の廊下、明るく広い教室での生活は、是が高校生活だと未熟な青春を満足させてくれるに十分だった。

昼時になると日の射さない校舎の隅の売店に、串刺しの黒ハンペンとポテトのフライが白いバットに並べられ、ウースターソースが振り撒く匂いに、飽くなき食欲を駆り立てられた。ラグビー部、サッカー部の部室から来る、ジャージーの不潔ですえた汗の臭も気にならず、手当たり次第に貪り喰った黒ハンペンの味が、半世紀を過ぎた今も、忘れ得ない思い出の一つだと記述するのは、如何にも貧弱な食生活だったのではと気には為る。

杉山先生の世界史を学びながら、世界を見てやらんと忠実な友との約束を守り、東京水産大学を出て船乗りを生涯の職とした。日焼けした額に汚れたしほり手拭を巻き、南十字星の下にマグロを追い、北極星を見ながらアリューシャンの紅鮭と、世界の漁場を今日は北、明日は南の、睡眠を忘れた漁師生活に青春を投げ出しておの15年、それだけを誇っていた体力に老いと限界を感じ始めた頃の1977年1月、EMERALD CITYと呼称される、静かな漁業の町シアトルに駐在を命じられた。

当時、日本の漁業は世界の海での節操の無い乱獲のツケを負い、200マイルの経済水域の設定、鯨、鮭鱒、マグロ、カニ、底魚の漁獲制限、漁獲禁止、そして、禁漁海域の増加で水産物の供給に大きな危機感を持ち始めていた。打開策として、米国水産会社との合弁事業、関連事業の買収、投融資等に積極的に参入を始めた時期に当たり、私の奉職していた日魯漁業も、水産物供給のルートを確保するために、シアトル、アラスカの大手中産会社に投融資、買収し、結果として、バブル経済の先兵の役割を果たしていた。

シアトルは北緯47度と高緯度で樺太辺りと同緯度に位置した、山と湖沼に恵まれた北太平洋に開けた港町です。古くはアラスカのゴールドラッシュを支え、豊富な鮭鱒缶詰、そして木材の輸出に栄えた米国史に残る由緒ある古い町でもあり、第二次大戦以前から日本人の移民が、漁業に農耕に励んだ町としても名を残しています。町の南側にはタコマ富士と呼称され、三保の松原から見た富士山を彷彿とさせる、レイニヤ山がそびえていて望郷の心を癒してくれています。気候は周年温暖な海洋性で乾期と雨期に分ける事が出来て、雨期の真冬でも氷点下以下に為る日は数える程です。漁業基地としての機能は、主としてアラスカ海域で生産される、タラコ、筋子、数の子、鮭鱒、鯨、カニ類、すり身(蒲鉾、ハンペンの原料)、底魚類等、日本の水産市場への供給量は、世界最大の取り扱いで、皆様の台所に毎日お邪魔している事でしょう。

特質すべき輸出品の一つとして、世界一と言われるオランダのチューリップの生産は、シアトルが球根の生産を止めれば維持できないでしょう。ハイテク産業のボーイング、マイクロソフト、任天堂と、コンピュータ関連の先進電子技術もシアトルの主要産業です。郊外には米国最大の海軍基地を擁して、戦乱続くアフガニスタン、パレスチナ、イスラエル、イラク、インドネシアに派遣される、軍艦、戦闘機、軍人の生活する戦争準備基地です。常時戦場に直結した臨戦態勢下の町でもあるけれど、スターバックスは平和裏にシアトルと日本、否世界を繋ぐ平和の用途かも知れないと考えてみても、漁師頭脳ではとても理解困難な驚愕の環境体験の毎日です。

桜が満開の昨年(2007)の4月初旬、シアトル・マリナーズにイチローが彗星の如く現れ、多くの人々に野球の面白さを満喫させて、佐々木、長谷川が加わっての活躍は、シアトルが野球のメッカが如き体で、テロの恐怖、世の不景気な話も埒外に、老いも若きもメジャーリーグの夢を語り、今日もイチローの首振り人形が善男善女をSAFECO・FIELDにおいておいでをしています。今は亡きラグビーの親友 中島敏之に捧げる。

以上

水産大学を卒業後、日魯漁業入社。ニチロ・アメリカの社長を永年勤め

定年退職後は同じシアトルにある魚網製造・ニチモウ・インターナショナル(株)

に招かれ、社長を勤め、現在顧問。

ワシントン州、シアトル在住。

- 蒸男、富田杉男、林さち子
- 74 佐藤薫郷、佐藤捷造(6)、佐藤鐘司、井鍋正良、松下晴一、寺尾絢彦(6)、西山肇、藤原經史(9)、塚本豊、高瀬宏三郎*、見城尚志(5)、田中佐知子(6)、山口雅子(2)、角谷治子
- 75 佐藤修二、大島崇志、今田肇
- 76 鈴木浩(6)、坂内三容、富田駿
- 77 坪井孝夫、鈴木宏治、野方重人(6)、小池淳夫、中川素子(5)、石間啓一、石山建一(6)、柴田哲男、岩崎敏宏、三浦位通(6)、袴田共之、清水雅尚、飯田善久(6)、柳川信子、小長井奎幸、大岩蓮(5)
- 78 石井博之(6)、細野茂、小長井孝、鈴木彰、斎藤登記男、石川暢子、望月昭彦、鎌田勇、石塚寿子、山上晴重、河辺正宏、垣生尚敬、奥山和子、次田肇(2)、小澤安則、石山喬
- 79 島田洋子、野崎喜吉、岩崎洋子(5)、上田尚亮、中山英子、森一麻、森田信男、大石恵則(6)、大川明、村田吉隆、杉本充俊、富野興(2)
- 80 小木哲朗、吉野卓史
- 81 本多英一、嶋田政子、仲谷

- 博明
- 82 堀内淳司(4)、青木興治、篠原温(5)、岩本昇三、白石和久、鈴木秀孝(5)、大石高志、福田一久
- 83 杉山順一、生駒光博、山田孝夫(6)、塩谷立、池田幸司、高橋成彰、牧野英敏、伊東成師、内野直樹
- 86 矢部徹(6)、近藤孝邦、板倉直壽
- 87 平岩正史(6)、塩川治郎、遠藤久資、鳥巢修、山崎眞紀子(5)、新村暢宏、米澤宣行、川島雅行、栗山伸一、荒川千明
- 91 矢西光彦、小原裕子
- 92 山野直文、93 岡村幸彦
- 94 佐々木美登里、95 永江総宣
- 98 池田良夫、100 五十嵐寧
- 101 穴沢敦子
- 期不明の方
- 岡田光二(3)、久米旺生(1)
- 合計四五五名の会費納入者で総額一、六一〇、〇〇〇円でした。但し、昨年は二、二〇八、〇〇〇円の会費納入をいただきましたので、約六十万円の減額となりました。同窓会員の親睦と会の維持のために会員の皆様の会費の納入を切に切にお願い致します。

第二四回 印高会ゴルフ会

開催日 十二月五日(水)
 コース 青梅ゴルフ倶楽部
 参加数 十七名
 優勝 富田 駿介(76期)
 二位 石井 博之(78期)
 三位 松井 義之(77期)
 特別参加賞として、西沢純三(四三期)さん(前列左端)に贈呈されました。今年、九十一歳でこの冬の寒い時期にご参加されて、最後までプレイされました。いつもお元気でなによりです。
 ★ゴルフ会に参加ご希望の方は、事務局までご連絡下さい。



ひとりひとりの ご協力を

○ 総会や同期会などの会合には億劫がらずに出席し、楽しい一時を持ちましょう。
 ○ 年会費の拠出者が年を追って減少し、さびしい事です。関東同窓会の運営も難しくなってきました。
 関東同窓会の円滑な運営のため平成十四年度会費(三千元)の納入を同封の振込用紙で、お願い致します。

次回の五十四号の原稿を募集しています

★同期会、紀行、随筆、短歌、俳句、海外勤務・在住の方のメールを御寄せ下さい。
 kingsmli@cba.atk.ne.jp

編集後記

● 読み応えのある原稿を寄せて下さり感謝しております。同窓会会員の皆様同士がもっと親睦を深められる様に、身近に感じる様な情報を提供し、そして更に読み応えのある会報にする様に広報委員会一同努力を惜しみません。総会・懇親会には多くの同期生を呼び合せて参加して下さい。(Y)

● 関東同窓会事務局が新しい体制になってから二年目となり先輩諸氏のご協力で何とか順調にやってきました。

今回の記事では故郷清水港と片やアメリカはシアトルの二つの記事が好対照です。七月にはいよいよ総会です。今から一躍有名になった斎藤孝さんの講演が楽しみです。皆様のご要望・ご意見を是非とも御寄せ下さい。(T)

★ 会報の広告募集 年2回(2万円)にご協力をお願い致します。詳細は事務局までお問い合わせ下さい。
 ★ 事務局へのご連絡は……
 〒101-045 千代田区神田鍛冶三三七三 敷下ビル六階 野方法律事務所内
 静中・ 静高関東同窓会
 野方重人(77期)
 TEL 03・3251・2348

鈴 与 株 式 会 社

取締役社長 鈴木与平 (76期)

清水市入船町11-1

TEL 0543 (54) 3015 (秘書課)

京浜支社 東京都港区芝公園1-2-12

TEL 03 (3432) 7152

日本レーベル印刷株式会社

代表取締役 岩井平一郎 (57期)

本 社 静岡市国吉田3丁目1番1号

TEL 054 (262) 1111 (代)

東 京 中央区京橋1-1-6 越前屋ビル8F

TEL 03 (3272) 4651 (代)

株式会社 富士越化成

代表取締役 野澤正憲 (64期)

東京都品川区南品川2-17-11

TEL 03 (5783) 3841

TEL 03 (5783) 3755

自動車・火災・傷害保険 大高保険事務所

代 表 清水雅尚 (77期)

東京都渋谷区東3-15-8

TEL 03 (3406) 9350

PHS 070 (5103) 8920

同窓会で人の輪を!!

野方重人法律事務所

弁護士 野方重人 (77期)

<事務所>

〒101-0045 千代田区神田鍛冶町3-7-3
敷下ビル6階

(TEL) 03 (3251) 2348

(FAX) 03 (3257) 0820

昼2時より夜11まで診療

タカラ歯科診療所

代 表 ^{フナ} ^{シナ} ^{アキ} ^オ 藁科名雄 (87期)

東横線 中目黒下車 徒歩5分

TEL 0120-376480

相続税・法人税・所得税などのご相談はどうぞ!

鳥巢修税理士事務所

税理士 鳥巢 修 (89期)

OSAMU TOSU

<事務所>

〒167-0041 東京都杉並区善福寺3-31-3

TEL 03 (3396) 3858 FAX 03 (3396) 3848

E-mail: tosu@mtj.biglobe.ne.jp

調剤薬局……首都圏に50店舗

株式会社 アイセイ薬局

「医薬分業のパートナー」

代表取締役 岡村幸彦 (93期、応援指導部)

東京都中央区日本橋蛸薬町2-14-5

TEL 03 (5651) 7200

<http://www.aisei.co.jp>

プロ野球選手 ご愛顧 28年

あのホームラン王も・有名なピッチャーも あの名監督も・コーチも

★★★ 高級仕立・オーダーメイド イージーオーダースーツ ★★★

確かな技術と縫製でご奉仕します

紳士服の 山梨テーラー 山梨株式会社 代表取締役 山梨由記 (73期)

千葉県船橋市前原西7-5-8 TEL 047 (478) 6906